

世田谷村日記

石山修武

十一月十日

朝七時過起床。薄暗い空模様。九時四〇分研究室。

十時高山晃さん来室。住宅の相談。奥さんも四ヶ月の子供を連れて同席。面白い夫婦だ。御主人は京都出身、奥さんは東京。アニメのプロデューサーの仕事。十二時迄。色々と話をつかがう。十七時李祖原と東大本郷へ。西安の法門寺プロジェクトに関して鈴木博之先生の意見をオフィシャルに取り容れたい為である。西安サイドから法門寺美術館のキュレーター・運営委員等が来日するので、その時に会を持つという事になった。巨大な、中国有数の寺院の巨大美術館だが、つい先日にも日本人留学生が問題を起こして帰国せざるを得なかったのを考えると、反日感情は根強くあるようだ。中国最大の歴史博物館になるだろうから、日本として何らかの寄与が出来るが良い。

十七時過、難波研究室へ。第一回技術と歴史研究会。難波和彦、中川武、松村秀一、嘉納成男、鈴木博之、佐々木睦郎、石山修武が発足メンバー。松村先生から面白い話が聞けたので、先ずはその話をうかがうのを始まりにしようという事になった。

松村さんは近代、モダンデザインの始まりの頃の試み、フラワー、ブルーベ、ピエール・シャロー等をほとんど全て実見して世界を廻っている。藤森照信が日本の明治期の近代建築を全て見たと豪語しているのと同じような事をしているのかな。世界では誰もそんな事していないから。近代の様々な試みが歴史家の眼で視られ

ている。この感覚は大事だぞ。十九時東大正門近くの小料理屋で会食。二十一時過散会。五名程で山の上ホテルのBarへ。深夜帰宅。